
失ったモノ

蒼藍紺。

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

失ったモノ

【Nコード】

N2598V

【作者名】

蒼藍紺。

【あらすじ】

仲のよかった兄妹。

雅と春樹。ある日の事春樹は死んでしまう。

それまでの道をゆっくりと遡って見て行く、という内容です。

終わりと始まり（前書き）

兄妹の恋愛となっています。

そういうのが苦手な方は今でも間に合いますのでリターンしてください。

終わりと始まり

失いたくなかった。

私はただそれだけだった。

『8月13日』

今日私のお兄ちゃん：みそのはるき美園春樹が死んだ。

でも私は悲しいなんて感情は無かった。

唯一あったとすれば疑問だった。

——お兄ちゃんまだ元気なのに。

私はお兄ちゃんがまだ生きているように見える。

——なんで私の周りは皆泣いているのだろう。

疑問で疑問でしようがなかった。

時は遡さかのぼって『4月1日』

〈それ〉はいきなりだった。

「雅、好きだ。兄妹だろうと俺は構わない。どうしてもお前が好きだ」

——は？

終わりと始まり（後書き）

ここまで読んでくださって感謝します。
もしよければ次回からも読んでいただけると嬉しいです。

きっかけ（前書き）

前回のあらすじ

兄、春樹に告白された雅。

さて、雅はどうする？

きっかけ

「何？冗談もほどほどにしてよ！」

私は少し無理に作った笑顔で言った。

——いきなりなんなの！？お兄ちゃんの事は好きだけど恋愛的意味ではぁ・・・うう。

「待て雅。俺は雅の事本気で好きだ。」

「お、お兄ちゃん気持ち悪いよ！？いきなりどうしたの！？」

「・・・やっぱ今の俺気持ち悪いよな、ごめんな。雅。」

——何このお兄ちゃん、わけわかんないよお！

「雅どうした？顔真っ赤だけど。そんなに怒った・・・？」

「ち、違うって！ってゆーかお兄ちゃんどうしたの！？いきなりそ、その・・・私が好きとか言い出してっ・・・」

——もうもう、わけわかんない！

私がずっともやもやしているとお兄ちゃんは急に真面目な顔をして私に言った。

「いきなりじゃないよ、雅。俺はずっと昔から雅が好きだった。ただそれだけさ」

「お兄ちゃん、それをいきなりと言うんだよ」

冷静にツツコミが出来る余裕が出来てきた。

「だって雅が俺の事誘ったから・・・」

お兄ちゃんはちよっともじもじしながら物凄く気持ち悪いポーズを取った。

「はぁ！？誘ってなんかいけないよ！お兄ちゃんと遊びたかったから『遊ぼう』って言っただけじゃん！」

「え？だから俺と×××な事して遊ぶんじゃ・・・？」

真面目な顔をしていったのでとりあえずぶん殴っておいた。

「無言で殴るとかひどいよ雅！」

今のお兄ちゃんの姿はなんともボロボロである。

服はただのジャージだし、顔は私に殴られてアザがあるし。

「お兄ちゃんって顔はイケメンなのに性格とか本当に残念だよね！」
パツリーン

何かが壊れる音がした。

どうやらお兄ちゃん^{ハート}の心が壊れた音のようだ。

心の弱い駄目駄目な兄^{ハート}だなあ。

お兄ちゃんは部屋の隅でシクシクと気持ち悪い泣き方をしていた。
私はさっさとその部屋から逃げて自分の部屋へと向かった。

お兄ちゃんと遊ぶつもりだったが今日は勉強しよう。

相手にしたくない。

あー、もう本当になんなの！？

きっかけ（後書き）

次が続きます。

ちまちま書いて申し訳ないです；

妹の反応と兄の想い（前書き）

前回のあらすじ

書こうと思ったけど面倒になったので今回から無し。

妹の反応と兄の想い

——本当になんなの？あのお兄ちゃん・・・
今になって心臓がドキドキしてきた

・・・ん？ドキドキ？

私ってお兄ちゃんの事好きだったの・・・？
って、そんな事あるわけないない！
勉強しよう、うん。

えーっと・・・

・・・なんで今回に限って保健体育！？
なんか恥ずかしくなってきた・・・
と、とりあえず国語でいいかな、うん。

一方その頃兄春樹はというと・・・

「ぐすっ・・・ひっく・・・」

まるで女のようなメソメソした泣き方で体育座りという

美少女がやればとても萌えポイントとなる格好で泣いていた。

——まさか妹が禁句を・・・！

でもしょうがないか。

いきなり告白した俺が悪い。

・・・早く付き合いてえ・・・

うじうじしててもしょうがねえ。

「返事聞こう。」

俺は立ち上がって妹の部屋へと向かう

コンコン

部屋の扉をノックされる。

——お、お兄ちゃん・・・？

心臓が急に跳ね上がる。

——あの状態だからしばらく来ないと思ったのに・・・! ああ、どうしよう・・・!

「雅、入っていいか?・・・その、返事聞きたいんだけど・・・」

「えっ、あ、う、ちょ、ちょっとまって!」

とても顔が熱い。

どうしよう、どうしようという言葉が頭を回る。

あれ?なんか頭が・・・

ドサッ

私は倒れた。

・・・雅、まだかな・・・?

そう考えていると急に部屋から大きな物音が聞こえる。

「雅?どうした?」

返事が返ってこない。

・・・まさか?

「雅、悪いけど扉開けるぞ?」

扉を開くと目の前には雅が倒れていた。

「雅?おい、雅。大丈夫か?」

反応がない。

息はしてるし心臓も動いている。

貧血かなんかだろう。

「・・・とりあえずベッドで寝かせるか。」

そのまま雅を寝かせた。

すると雅の服が少しはだけていた。

「・・・!」

危うく雅を襲いそうになったが俺は必死にそれをこらえて
そのはだけた部分をただしてから部屋を後にした。

・・・結局返事聞けてねえ!

好き嫌いの交差（前書き）

そういえば兄が妙に冷静だった前回。

何故あんなに冷静だったのか、いつかフラグ回収しておきましょう

好き嫌いの交差

目が覚めると私はベッドの上に居た。

——ま、まさかお兄ちゃんに××××された・・・？

自分の体をぺたぺたと触る。

何かされた跡は無かった。

——そういえばお兄ちゃん病人には手を出さないんだとか叫んでたっけ

そうあの日は・・・ってこんな事考えてる場合じゃない！

なんっで自分が×××な事されるの期待してたの！？

もう、意味わかんないっ・・・

あんなお兄ちゃんなんて大嫌いだっ！

私はしばらく枕を抱いては投げるを繰り返していた。

「あー、返事聞けてねえ・・・」

自分の部屋でボンヤリと天井を見ていたら隣の部屋から物音が聞こえてきた。

「ん？ 雅起きたみたいんだな・・・」

そうと決まれば雅から返事を聞かなくてはならない。

「さっきは聞けなかったんだからな。」

好き嫌いの交差（後書き）

本当にちまちま書いてごめんなさい＜＜
時間の都合でいつも長くかけないんです。申し訳ない。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2598v/>

失ったモノ

2011年10月9日13時30分発行